

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和 年 月 日

協議会名：庄原市地域公共交通会議

評価対象事業名：地域内ファイダーシステム確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
備北交通株式会社 下高野線	1日 4往復	令和2年度に実施した再編後の利用状況を観察するとともに、運行事業者と協議のもと、市内観光施設の周遊及び接続路線との乗り継ぎを考慮しながら、ダイヤ改正の検討を行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 1便あたりの利用者を59人以上としていたが、実績は5.4人であった。	新型コロナウイルス感染症の影響により利用が減少しているものの、通院や通学を中心に、市民の日常生活に欠かせない路線であることから、現在の運行形態を維持する。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

	<p>協議会名： 庄原市地域公共交通会議</p>
<p>評価対象事業名：</p>	<p>地域内ファイダーシステム確保維持費国庫補助金</p>
<p>地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)</p>	<p>庄原市は、広島県の北東部、中国地方のほぼ中央に位置し、面積は1,249.49km²で広島県の約14%を占め、全国の自治体の中で13番目の面積となっています。人口は令和3年11月末現在で33,413人となっています。 本市の生活交通は、鉄道はJR芸備線とJR木次線、バス等は路線バスとこれを補完する市営バス、地域生活バス、市街地循環バス、廃止代替等バス、乗合タクシーがあります。これらの生活交通は、高齢者や児童生徒など自ら移動手段を持たない市民が日常生活を営むために必要不可欠なものであり、高齢化が急速に進む本市においてその必要性はますます高くなっています。 しかしながら、人口減少などにより利用者が減少し、経費の増加など交通をめぐる経営環境は一段と厳しさを増しており、生活交通を確保するため、本市が負担する経費も約2.5億円となっています。 このような状況の中、生活交通は地域の基本的な社会基盤であるとの視点で生活交通はどうあるべきかを見定めながら、地域や利用者の特性に応じた移動手段を継続して確保していくため、本市の生活交通確保のための指針として位置づける「庄原市地域公共交通計画」を令和3年5月に策定しました。 本事業の対象路線である下高野線は、松江道の開通により、庄原市高野町や口和町地域から三次市街地への速達性が格段に向上することとなり、同年4月から半年間、本事業の活用を前提とした実証運行を実施し、10月から本格運行を行っております。この路線は、庄原市高野町や口和町から、三次市中心部へ乗り入れる路線であり、広域圏から三次市立三次中央病院への通院や三次市中心部での買い物などの移動手段として必要不可欠な路線となっており、また、交通結節点である三次駅や三次バスセンターでの乗り継ぎにより、さらに広域的な移動が可能となるものです。</p>